

# 「玉座」

— 1 稿 —

2025/02/04  
山極 瞭一朗

〈人物表〉

御子柴

一誠

(17)

高校生・龍滝四天王のひとり

宝

天人

(16)

高校生

金木

雄哉

(17)

龍滝四天王のひとり

青江

智樹

(17)

龍滝四天王のひとり

沖

堅信

(17)

龍滝四天王のひとり

男1・2・3

1. 高校・屋上（夜）

月明かりが輝く。  
電灯に照らされ、空席のパイプ椅子が煌々と光る。  
その背後の壁面に描かれた不死鳥の絵。  
制服姿の御子柴一誠（17）、壁画を漠然と見つめている。  
その腕には龍をあしらった龍滝高校のエンブレム。

2. トンネル（夜）

制服姿の男たちが吹き飛ばされる。壁に衝突し、地面に突っ伏す。

男のひとりが腕を落とす。龍滝高校のエンブレム。

男1 「お前、誰だ……」

向こうからフードを被った人物がゆっくりと歩いてくる。

恐怖に後ずさる男たち。

フードの男は男たちを見下ろすと、ニヤリと笑う。

その頬には大きな痣が刻まれている。

男2、その痣にハッとして、

男2 「まさか」

フードの男はしゃがむと、徐にフードを取り去る。

彼は宝天人（16）である。

天人 「兄貴を殺したのは誰だ」

男2 「し、知らない……」

天人 「玉座は誰の手にある？」

男1 「誰のものでもない」

天人 「あ？」

男1 「い、いないんだよ。空席だ」

天人、ニヤリと笑って、

天人 「だったら俺がいただく」

と、男1を殴る。

男1は気絶。

天人は男2の肩にそっと手を置いて、

天人 「俺につくか？」

男2は小刻みに首を縦に振る。

天人 「いい子だ」

と、拳を放つ。

男2も気絶。

天人 「俺に仲間はいらぬ」

と、息をつき、立ち去る。

3. 高校・外観（昼）

老朽化した校舎。

4. 高校・正門・外（昼）

『龍滝高校』の校名板。落書きが施され、文字がほぼ見えない。

5. 高校・屋上（昼）

空席のパイプ椅子と不死鳥の絵。

御子柴、じっと空席を見下ろしている。

欄干に寄りかかり、本を読む金木雄哉（17）、御

子柴をちらっと見て、

金木 「お前が殺したのか？」

御子柴、ピクッと頬を歪め、金木を一瞥。

金木 「そこに座りたいんじゃないのか」

御子柴 「ここは宝さんだけの場所だ」

金木、ふっと笑って、本を閉じる。ボロボロのソフ

アで眠る青江智樹（17）を一目見て、

金木 「このままでいいわけじゃない」

御子柴 「争うってか？」

金木 「だけど下の奴らは揺れてる。宝さん亡き今、誰につくべ

きか」

青江 「俺はいいぜ」

と、大きく伸びをして体を起こす。

金木 「起きてたのか」

青江 「誰が玉座に座るのか。俺ら4人で戦って決める」

御子柴 「本気で言ってるのか」

6. 道（夜）

青江 「もちろん。4人だと指揮系統が乱れるだけだ」

御子柴 「納得しない奴らが必ず出てくる」

青江 「じゃあどうする？」

沖の声 「我々は凡人です」

沖堅信（17）、やって来て、手近のパイプ椅子に座る。眼鏡のブリッジをきゅっと押し上げて、

沖 「誰も宝さんの代わりにはなれない。それに……」

青江 「何だよ」

沖 「宝さんを殺したのが僕らの誰かだと疑う声も多い」

御子柴、ごくりと息を呑み、金木、青江、沖をそれぞれ見つめる。

沖 「今玉座に座れば、怪しまれるだけで、誰もついていこうとは思わないでしょうね」

御子柴、振り返って、空席見る。そして拳をぎゅっと握る。

壁面に描かれた不死鳥。

人気のない通り。

沖が歩いている。

背後から足音。

沖はちらっと一瞥して、口角をあげる。そして速度を上げる。

足音も速くなる。

沖、角を曲がる。

足も曲がる。が、ピタッと止まる。

沖が待ち伏せしていて、

沖 「私に御用ですか」

天人は沖に対峙し、ニヤリと笑う。

沖 「宝さんの弟、ですね」

天人 「玉座は俺がもらう」

沖 「4人を殺して奪うということですか」

天人 「先に奪ったのはお前らだ」

沖、くすつと笑う。

天人 「何がおかしい？」

沖 「尊敬こそすれ、誰も宝さんを殺さない」

天人 「でも殺された。それが全てだろ」

沖 「復讐、ですか」

と、眼鏡を外し、放り投げる。

天人、ふっと口角をあげる。

沖 「仕方ありませんね」

天人、ぎゅっと拳を握る。駆け出す。

## 7. 高校・屋上（昼）

御子柴と青江が話している。

金木が慌ててやって来て、

金木 「沖が……」

御子柴、呆然として、息を呑む。

## 8. 病院・集中治療室（昼）

ベッドで眠る沖、顔は紅く腫れあがり、様々な医療器具が装着されている。

傍らには割れた眼鏡。

## 9. 高校・屋上（昼）

青江 「誰がやった」

金木 「他にも被害を受けた奴がいる」

御子柴、ピクッと頬を歪める。

青江 「あ？」

金木 「そいつらによると、男の頬には痣があったらしい」

御子柴、ハッとして、不死鳥を見る。

金木 「天人だ」

青江 「くそっ」

と、ソファに拳を叩きつける。

御子柴 「目的は玉座か」

青江 「俺らも標的」

金木、徐に御子柴を見やる。

御子柴 「天人……」

すると、男3が慌てふためきながらやって来て、

男3 「せ、先輩……」

金木 「どうした」

男3 「し、侵入者です」

青江、咄嗟に校庭を見下ろす。

男3 「頬に痣のある男が……」

青江、舌打ちして、

青江 「向こうからお出ましか」

すかさず出ていこうとする。

御子柴 「青江」

青江、立ち止まって、御子柴に笑みを見せ、

青江 「大丈夫だって」

と、男3と共に出る。

御子柴、不安そうな面持ち。

## 10. 高校・校庭（昼）

怪しい雲行き。

天人、毅然と立っている。

校舎からぞろぞろと男たちが出てくる。

天人、ニヤリと笑う。

男たちの先頭に、青江が出て、

青江 「ひとりか」

天人 「十分だ」

青江 「沖が世話になったな」

天人 「お前が兄貴を殺したのか」

青江 「まさか」

天人、屋上を見やる。

御子柴と金木が見下ろしている。

交錯する御子柴と天人の視線。

天人 「全員殺せばいいだけの話だ」

拳をぎゅつと握る。

静寂が走る。

風が吹き、砂埃が舞う。

青江 「行くぞ、お前ら」

男はうなる歓声と共に駆け出す。  
天人、走り出す。

11. 高校・屋上（昼）

校庭を見下している御子柴。  
ぽつぽつと雨が降り始める。  
御子柴は頬を歪め、振り向く。  
その視線の先には不死鳥の壁画。  
次第に雨は強くなっていく。

（おわり）